

## 令和5年度

### 第1回静岡市立清水看護専門学校関係者評価会議 議事録

日 時 : 令和5年10月12日(木) 15時30分～16時30分  
場 所 : 静岡市立清水看護専門学校会議室  
司 会 : 事務長 志田訓広 書記: 松本めぐみ 西谷沙紀  
出席者 委員長: 水谷美由紀 委員: 櫻井郁子 渡邊昌子 塚本尚代  
教職員 校長: 上牧 務  
看護学科 副校長: 佐野繁子 教務長: 和田 愛 教務主幹: 加茂川将美  
教務主幹補: 松本めぐみ 中村卓樹  
看護教師: 西谷沙紀 坂本希世子 井出美也子  
助産学科 教務長: 池村さおり  
看護教師: 稲川由美 山本智美 深澤啓世  
事務 事務長: 志田訓広  
主 査: 辻 愛子

#### < 校長挨拶 >

皆さまの専門的な知見からご意見をいただきたい。  
今日は、よろしくお願ひしたい。

#### < 評価委員の自己紹介 >

櫻井郁子委員(公益社団法人静岡県看護協会常務理事)  
水谷美由紀委員(静岡市立清水病院看護部長)  
渡邊昌子委員(静岡県訪問看護ステーション協議会会長)  
塚本尚代委員(清水看護専門学校後援会会長)

#### 司会(事務長)

本校の職員を紹介する。

#### < 職員自己紹介 >

佐野繁子(副校長) 志田訓広(事務長) 和田 愛(看護学科教務長) 池村さおり(助産学科教務長) 辻 愛子(事務主査) 加茂川将美(看護学科主幹) 松本めぐみ(看護学科教務主幹補) 中村卓樹(看護学科教務主幹補) 西谷沙紀(看護学科看護教師) 坂本希世子(看護学科看護教師) 井出見也子(看護学科看護教師) 稲川由美(助産学科看護教師) 山本智美(助産学科看護教師) 深澤啓世(助産学科看護教師)

〈学校関係者評価会議の評価について〉 資料1 参照

司会（事務長）：学校関係者評価会議の目的・評価委員への期待・評価の進め方について副校長より説明する。

佐野副校長：専修学校の学校評価制度には自己点検自己評価のほか自己評価結果を客観的に検証するシステムとして、「学校関係者評価」がある。

目的は、①自己評価の結果の客観性・透過性を高める。②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校経営の改善を図ることである。

評価のポイントは、「自己評価結果の内容が適切か」、「自己評価結果を踏まえた今後の改善策が適切か」、「学校の重点目標や評価項目などが適切か」、「学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か」である。

評価結果の公表・活用については、第2回会議での評価結果を頂き、ホームページで公表する。

自己評価と学校関係者評価の組織関係は、資料1の図に示した通り。構成員は、学校教育法第67条で、「学校関係者は、当該学校の教職員を除くもの」となっているので、看護分野に関し知見を有する団体の役員として渡邊様、櫻井様、清水病院の職員として水谷様、そして、保護者を代表し、本校後援会会長の塚本様にお願いした。この組織は、学校とは別の組織と位置付けられるので、後程委員長を、互選して欲しい。評価の報告及び意見交換となりましたら、委員長に司会をお願いする。

今後の進め方は、令和5年度の間での自己点検自己評価結果を担当者から報告する。先ほどの視点で項目ごとにご意見を伺いたい。ご意見は、学校側で取りまとめていく。内容をご確認していただき、委員長からの報告とする。

年度末の評価結果は、年報及びホームページへの掲載で公表する。この時、評価委員のお名前も掲載する。

〈委員長の選出〉

司会（事務長）：委員長は委員の中から選出することになっている。委員の皆様からの賛同があり水谷様に委員長をお願いした。この後の議事進行は水谷様をお願いする。

水谷委員長：学校側から令和5年度自己点検・自己評価結果の中間報告をお願いしたい。

## 1 自己点検自己評価の中間報告（佐野副校長） 資料2 参照

事前に配布した自己点検自己評価の中間結果について報告する。今年度も昨年度に引き続き、学校職員全員で自己点検・自己評価に取り組んできた。

昨年度の学校関係者評価会議の示唆を受け、今年度の自己点検・自己評価委員会の目標を挙げた。①求める学生の確保に向けて2学科あるよさを活かした本校の魅力の情報発信を強化し、その取り組みを確認していく。②多様な価値観をもつ学生の社会性および職業としての倫理を育み、その取り組みを確認していく。③学習環境を整備する取り組みとその状況を確認していく。以上を挙げて取り組んできた。

自己点検・自己評価の取り組みは、事前に配布した資料、表紙の裏面にある中間評価結果の表の12項目にそって、各職員が担当する業務から強化および評価チームを作り、担当職員を中心に職員全員で学校運営に取り組んできた。全職員で評価するにあたり、各チームで取り組み状況を職員会議で報告し、その報告を受けて、職員で評価点をつけた。その結果がこの表に載せている評価点となる。

今年度力を入れた取り組みを中心に説明する。

求める学生確保に向けて、看護学科では、今年度の入学生は29名であり、18歳人口減少と大学志向がすすみ大学進学が容易になる中で、合格基準を満たす学生が減少し、近隣校と受験日が重なったことも加わり一般入試受験者が減少した。コロナ禍で人数制限やリモートによる学校説明会や校内のみでの看学祭やボランティア活動の制限による地域発信の不足も影響していると考えた。そのため、入試結果と入学後の成績の推移を分析し、合格基準の検討を行った。今年度より一般入学試験日程と方法を変更し実施する。さらに情報発信の強化として、自治会を通して学生に学校の魅力を発信するアイデアについてアンケートを依頼し、その結果も活用し学校全体で取り組んでいる。5月には今年度より戴帽式から聖火継承式に式典名を変更した。地域・在宅へと看護の場が拡大し、ナースキャップが看護師の象徴ではなくなってきており、新教育課程となった機会に変更した。この式典名は2年生が考えた。ナイチンゲールのキャンドルから学生自ら灯を受け取り、目指す看護師を1人1人が表明する内容にした。近隣の高校に呼びかけ、式典に高校生4名が参加した。その様子はTV放映され静岡新聞に掲載され、本校のPRの一つになった。また、募集要項の完成時期を5月中旬に早め、受験生が興味をひきやすい内容や構成に変更し、ホームページの掲載内容を質問に学生が応えるなど工夫した。人数制限をなくした予約制でのオープンキャンパスに変更し、全参加者が学生と交流できるように企画した。7・8月の2回の開催で各100名計207名の参加を得た。参加者のアンケートからは、学生との交流の満足度が高かった。そして、教職員が高校訪問する範囲を中部地区から富士・富士宮に広げるとともに、学生による母校訪問を夏休みに依頼し、近況報告とともに看学祭の参加を呼び掛けた。看学祭では、新たに学生による高校生に向けた相談コーナーも企画している。そして、自治会がInstagramを立ち上げるにあたり、市の広報課を訪ね意見を得て、現在運営の準備をすすめている。また、4年ぶりの開催となった救急フェアに本校のブースを出した。1・2年生10名が参加し、ブースに延べ107名の来場があった。学生は学びを活かし、地域のさまざまな方々に血圧測定を行い、正しい手洗いの仕方を伝えることができた。参加した学生にとっても地域の方々の健康への意識を知る機会にもなっていた。このように、学生の協力も得ながら地域への発信強化を引き続き行っていく。

助産学科では、昨年度に引き続き、平日の学校説明会を4回実施し、看護師8名の参加があった。オープンキャンパスでは、45名の参加があった。今年度は、在校生に学校生活の実際を、卒業生に助産師として働いている体験を語ってもらい、将来の姿をイメージできるようにした。アンケートでは、在校生・卒業生からイメージができた満足度が高かった。また、今年度より分娩介助10例が確保できるよう、清水病院と静岡県立総合病院でのローテーションによる分娩介助実習を開始した。両病院での分娩介助方法の擦り合わせを行い、学生が違う実

習施設でも負担が少ないようにした。分娩介助の進捗状況を確認し、ローテーションの変更を相談し、分娩介助件数に偏りがないように調整した。

2学科あるよさについては、助産学科の学生による1年生への性教育の講義を今月実施予定である。昨年度に引き続き、助産学研究発表への参加や助産学科の学生と助産師に関心がある看護学科の学生との交流会も計画している。2学科あるよさを活かした実践とその広報に努めていく。

多様な価値観をもつ学生の社会性及び職業としての倫理を育むことについては、今年度より看護学科では実習評価において、ルーブリックの観点に今まで内在していた倫理に関する学習活動を別にして全領域の実習で取り上げ、学生が目指す姿を意識して3年間で育ち、教員は支援できるようにした。1年生は、9月の実習前に実習に向けたマナー講座を受講した。新教育課程では、2年生の基礎看護学実習Ⅲでリフレクションに焦点をあてた実習を行っている。そして、2年生は7月に就職活動スタートアップ講座を受講した。今年度初めてホームカミングデーを実施し、多様な場で働きはじめた卒業生と情報交換を行い、キャリアを考える機会になった。そして、教員の学習会では、実習での倫理に関する場面をとりあげ教員間で振り返り学んでいる。そして、情報の取り扱いについては、ガイダンスなどで今まで冊子を使って説明してきたが、ソーシャルメディアガイドラインを学生便覧に加えた。また、ハラスメント防止ガイドラインは次年度の掲載に向けて準備をすすめている。看学祭やボランティア活動は、学校を知ってもらい学習を活かし地域貢献する機会となるとともに、学生にとっては社会性を学ぶ機会にもなる。このようなさまざまな機会を使って、社会性や職業としての倫理を育てていく。

学習環境の整備では、かねてから課題であった空調設備の修繕は、8月に看護学科学生の教室と母性小児看護実習室を実施した。修繕後は、学生が講義中自分の扇風機を使用することなく、機器からの水漏れもなく、授業に参加している。さらに、年度末までに追加の修繕ができるよう調整している。タイル修繕については優先度をふまえて実施している。助産学科では、清水病院に導入される分娩シミュレーターを授業で活用できるよう、準備・調整をしている。課題としては、生活環境では空調設備やタイル未修繕の箇所があり、洋式トイレの数の不足がある。ICTを活用し臨床判断や実践力を育てるための環境がある。看護学科が県の指導調査を受けた際、シミュレーションモデルや電子カルテ、電子黒板などのICT環境の整備状況及び計画の確認を受けた。予算確保は難しい現状であるが、学習環境の整備は、学生募集にも関わっており、入学者減少の現状を使って必要性を伝えている。

駅から離れている立地をカバーし選ばれる学校になるために、引き続き、2学科あるよさを活かした教育とその発信、社会性と職業としての倫理を育む、学習環境の整備に取り組んでいく。

報告は以上である。

## 2 意見交換

水谷委員長：令和5年度中間報告を聞いて、皆さんからご意見をいただきたい。

櫻井委員：評価の点数自体は問題ないと思う。いくつか、感想と意見を伝えつつ、教えていただ

きたい点がある。Ⅱ学校運営の目標「教職員の互いの状況と考えを理解しあい職場環境を作り安定した学校運営をする」について。今年度の4月から、看護学科と助産学科の職員室の環境を一緒にしたのは非常に効果的だと思う。ハラスメント防止ガイドラインや、ソーシャルメディアガイドラインなどを作成しているが、各々の学科で学生さんが学習しやすい環境作りのためのいろいろな対策はされていると思うが、表題にあるような教職員の視点ではどうなのだろうか。この点が評価にあがっていないと思う。やはり、学生が健全に学習するためには、先生たちも健全でなくてはならない。そういうことが整備されていることも目指していただけたらよいと思う。教員の皆様のご苦勞がいろいろあって大変な思いをされていると思う。現在のハラスメント防止ガイドラインは学生に向けてだけだと思うので、職員同士に向けたガイドラインも必要だと思う。今後、ご検討いただけたらと思う。それから、看護学科のⅢ教育活動の項目で、成人看護の方法において「ねらった課題の成果が出ていない現状がある」と評価されているが、現状の原因をどのように分析されているのか教えていただきたい。また、電子媒体を使う方向性になっていくと思うが、今の学生は小中学校、高校までは紙媒体で生活をしてきており、紙媒体に慣れている。突然、看護学校に来て電子媒体となり、それに慣れるまでに時間もかかるので、紙媒体で配布している物もあるとのことだが、自宅にプリンターの準備を促す中で、自宅に用意できない学生はどのようにするのか気になった。環境づくりという点で気になったので意見を言わせていただいた。

副校長：Ⅱ学校運営について、昨年度は教職員もコロナ禍や昨年度は清水区の台風災害もあり、学生のみならず教員たちの中でも断水、床上浸水や車が使えないなどの現状があった。その中2人の教員が途中で仕事から離れることになった。カリキュラムの改正もあり、なかなか休まる時がないが、この状況だからこそ、なるべく教員間で話ができる環境を作ることが大事だと考え、ひとつのアイデアとして職員室をひとつにした経緯がある。実際は、互いの様子の変化など事務の方も気にかけて声を掛け、助産学科と看護学科間でも情報交換しやすくなった。風通しの良い職場には配慮が必要で、教職員が働きやすい職場という点では、管理職も頑張らないといけないと考えている。

加茂川教務主幹：成人看護の方法を担当している。昨年までは、呼吸器障害、循環器障害といった疾患を主にした看護としていた。新カリキュラムとなった今年度からは、慢性期看護や周手術期看護、急性期看護など経過に合わせて成人看護の方法を組み立てている。慢性期看護では映像を利用し、実際に目の前にいる患者がどのような状況で症状が出ているのか、学生がイメージしながら最終的に退院していく患者にどのように指導していったらよいのかという慢性期の視点で考えていけるようにしている。周手術期について担当者が本日欠席だが、どこまで周手術期の看護をおさえたら良いに課題があり、目標を定めていかなければ、何を学ばせたいのが難しくなるという点から、検討が必要であると考えている。

和田教務長：授業資料は、基本的に Google のツールを使って配信をしている。学生は、2年生の方が紙媒体を希望する学生が多い。1年生は、比較的、紙媒体の希望を確認すると不要と答える学生もいるので、希望者の人数を確認するなどして、ニーズを把握しながら対応している。自宅にプリンターを用意できない可能性という点では、学校に設置している自治会学

生用コピー機について、データ送信によりプリントアウトできるタイプへの更新を検討しているが実現には至っていない現状にある。

塚本委員：特に質問はない。子どもは3年間学校に通っているが、入学するその前から、コロナ禍でいろいろな制限があり、保護者も学校には入学式と戴帽式に参加しただけである。正直、学校のことがわからない。子どもから話は聞くが、今、説明のあった学校の細かいことは全くわからない状況にある。勿論、1人の子どももしくは、友達が遊びに来た時に話してくれることしかわからない状況である。1年生の時から感じていたが、保護者に対して、もう少し学校からの情報が入ると有難い。マチコミのアプリを使っているので、それを利用して、学校の取り組みなどを配信していただくと有難いと感じる。

加茂川教務主幹：学生の学校での様子や、出来事は静岡市の学校のホームページへ、写真なども掲載しながら更新しているので、是非ご覧いただきたい。その点の周知は不足があったと思うので、学生を通しながら積極的に保護者にお伝えできるようにしていきたい。

渡邊委員：安定した学校運営ができているという点には評価できる。項目8でICTを活用し業務の効率化が図られているという評価だが、実際に職員の時間外勤務の状況、残業の状況はどうなっているのか。学生に向けたことだけでなく、教職員に向けた視点が必要なのだと思っている。実際に、このような状況がどのようになっているのか伺いたい。また、教育環境のところで施設設備に関しては必要な予算をあげられていると思うが、先ほどもお話あったように学生が学習しやすい環境、そして教職員が働きやすい環境のためには、教育環境を優先的に整えて欲しいと思う。その辺のお考えを聞きたい。学生募集に関しては、求める学生の確保のために頑張っており、聖火継承式で学生さんも参加しながら、近隣の高校生にも呼び掛け4名の参加があったことや、学生自治会でインスタグラムの開設に向けて動き始めているという意味ではすごく良い。もうひとつ加えるならば、少子化社会では小学生の時代から、看護の仕事や看護学校のPRをしていく必要がある。

助産学科では分娩件数が減少しているという報告で、勿論、そのような状況をデータ的には理解するが、その中で地域の助産院など活用しているかを伺いたい。病院では少子化でお産の件数をとれないとしたら、地域にいる方々の協力もいただきながら助産の看護の経験ができると思う。看護学科のI教育理念・目標の点で、項目3「将来構想をほぼ抱いているものになっている」と評価しているが、何が不足して評価点が3になっているのか伺いたい。助産学科のIV卒業・就業・進学の中で、卒業後のカリキュラム評価のアンケートの設問の中に、キャリア形成に関する質問があるのかという点と回収率が低い要因について分析されているのかという点を聞きたい。また、学生の募集に関して、学生の定員が現在、満たされているのか、欠員なのか伺いたい。XI国際交流では、先ほどの説明で理解したが海外を行き来している人がいるので、もう少しホームページでの開示や可視化ができると良いと思った。

池村教務長：助産所実習は実施している。5日間を2クール行う実習期間の中で助産院の分娩件数自体が月に多くて3件程度なので、分娩に出会うことは少ない。助産所実習では、分娩介助ではなく、分娩の見学で依頼している。総合病院の施設設備の整った環境での分娩と、助

産所での産婦の産む力を引き出しながらの自然な分娩を学生が体験できるように実習しているが、助産所での分娩介助は難しい現状にある。

和田教務長：教員の時間外勤務に関して、実際持ち帰りの仕事もある。子育て中の教員では、家に帰らなければならないので見えない時間外が発生していることは問題だと思っている。紙媒体から電子に移り変わっていく中で、業務の整理はできていない。紙に記入しデータでも入力するといった業務がダブルで発生している現状にある。データで入れたら紙を止めるなど、思い切った選択をしていかなくては、業務としては増えていく一方であり、学年担当業務などでは、改善していける部分があると思っている。ICTの活用でいえば、例えば精神看護学実習では、教員は葵区与一の静岡県立こころの医療センターまで実習指導に出向いている。時間外勤務や実習指導の状況など、データを外から入れることが可能な時代に、学校に戻ってからまとめてデータを入力したり、溜まった業務をまとめて取り組むなど時代にそぐわない働き方をしている状況にあり、まだまだ改善の余地はあると考えている。

事務長：具体的な数値で言うと、令和4年度の時間外勤務について、本校の実績は2000時間発生している。1人あたり年間100時間の計算となる。本年度も同様の状況で発生している。ICT化に関しては、7月に静岡県の指導調査を受けたが、学校のICT環境を整備することで魅力ある学校作りを進めて欲しいと講評をいただいた。その中で、教育課程編成会議でも意見をいただいたシミュレーターの導入について来年度予算で計上している。明日、局長レクがあり導入に向けて尽力していきたいと考えている。

学生の定員については、例年、看護学科の場合40名の入学定員に対して同程度の入学生を確保できていた。今年度の入学生に関しては、29名ということで少ない状況になっている。ひとつの原因として、近隣校となる中部看護専門学校や島田市立看護専門学校と入学試験日程が重なってしまったことが一因である。そのため、今年度の入試日程を調整した。富士、富士宮地区の高校への学校訪問も範囲を広げ、6月から7月の初めにかけて10校ほど訪問し、市内、中部地区を含めると全体で49校の学校を訪問して学生募集のPRをした。令和6年度入学生を多く確保したいと考えている。

副校長：今年度は、原級留置となった3年生が多く48名と、今までにない大所帯で運営をしている。よって、学生総数120名の定員のところ、今年度は115名で運営している。最近では115名から120名程度で推移している。

水谷委員：I教育理念・目標の「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか」という点で、十分周知されていると評価されているが、学生や保護者全員にしっかり周知徹底するのはとても難しいと思う。病院でも同様だが、掲げている理念や目標を知っているか問うと答えられない状況もある。周知徹底に向けて工夫している点があれば教えて欲しい。V学生支援で学生相談室を設けているが、人間関係や実習での悩みなど、相談件数自体は少ないようだが悩み事は学生も沢山あると思う。学生相談室で相談を受けている職員は専門の資格を有しているか、研修等を受けている方が教えて欲しい。

助産師を目指している学生も多いと思うが、少子化で分娩件数が減少しているなか、当院でも如実に表れてきている中で今後、実習先をどのように検討しているのかとても心配して

いる。X社会貢献では、コロナ禍も明け、ボランティア精神、損得ではなく、相手のために行動するという精神を養うためにもとても良いことだと思う。また、社会性を養うためにも良いと思うので、いろいろな分野でボランティアを勧めて欲しい。

和田教務長：学生相談は、月に2回開設しているが臨床心理士が行っている。年度はじめに臨床心理士から全学生にオリエンテーション行ってもらい、利用方法について周知している。希望があれば学生が予約表にマークを記入して受けられるようになっている。ただ、教員が利用して欲しいと考える学生と、実際利用している学生が繋がらないところもある。無理矢理受けてもらうこともできないので、声かけや紹介をしている。教育理念では、現在、取組んでいる工夫として、年度始め、開講時、授業依頼時、実習調整で実習施設の方と打ち合わせ時など、教育目的や将来の目指す姿になるための実習の位置付けなどを共有している。今は、現行カリキュラムと新カリキュラムがある中で、まだ目標が十分に一周していない部分もあるので、教員としては見えない中、ものすごく藻掻きながらやっているのが現状である。学生が確保できなかったり、必要な物が購入できなかったりする中で、この学校はどうなってしまうのかなという不安はあると思う。

池村教務長：助産学科の学生の中には、看護学科時代はクラスの中でリーダーシップをとっていたが、リーダーシップがとれる学生の中でなかなか本来の自分が出せないという点に悩んでいた。教員も相談にのっているが、臨床心理士に相談しながら一緒にサポートしている。また、7月8月の分べん介助実習まで、かなりハードな授業や演習がある。夜間のオンコールの分娩介助実習があるので学生にとってはかなりストレスな状態にある。そのため、9月の末に集団カウンセリングを行って、学生が自分の心の内を吐き出せるような機会をつくっている。教育目標について、学生は成人学習者なので保護者への周知はしていないが、科目の開講時に教育目標のどこに位置付けられているかと、最終的な到達地点を必ず学生に伝えながら授業を行っている。卒業生へのアンケートの回収率が低い原因はまだ分析できていない。考えているのは、地元就職する学生が少なく、県外や、県内でも東部、西部地区など遠いところに就職した卒業生は、実習場で会うような機会も少ない。清水病院に就職した学生は学校にも会いに来てくれ、中部地区の実習先では会える機会があるが、その他は、アンケートを出しても再度の連絡がとれにくい。どのような対策をしていけば良いかは、今後検討していきたい。

水谷委員：他にご意見がないことを確認し、以上で中間報告の審議を終わらせていただく。

事務長：水谷様、委員の皆さま、貴重な意見をありがとうございました。いただいたご意見については下半期の運営に繋げていく。

今回は、令和6年3月14日15時30分からを予定しているのでお願いし、本日の会を終了させていただきます。

## 令和5年度学校関係者評価中間結果

### 1 自己点検自己評価中間評価点

	点検項目	評価点	
		看護学科	助産学科
1	教育理念・目標	4	4
2	学校運営	4	
3	教育活動	4	4
4	卒業・就業・進学	4	4
5	学生支援	4	4
6	教育環境	3	
7	学生募集	4	4
8	財務	4	
9	法令の遵守	4	4
10	社会貢献・地域貢献	4	
11	国際交流	4	
12	教育力の向上	4	

### 2 評価結果

点検項目	自己点検自己評価結果	学校関係者評価結果 (10月12日現在)
(1) 教育理念	<p><b>【看護学科】</b></p> <p>入学式・保護者会・講師会議を通じて説明する機会を設けた。</p> <p>保護者会は、昨年度に引き続きリモートで実施した。その時の参加者の声を活かし、事前に配付することで、目を通していただき、画面のみより不明な箇所を確認しやすくなると考えた。そこで、出席予定者へディプロマポリシーの視点を活用した学年目標を配布し学年別保護者会で説明を行った。アンケートには1年ごとに目標が違うことが分かったなど目標への周知ができた回答も見られた。欠席者にも配布しているが質問や相談等の回答はなかった。</p> <p>基礎分野の講師より、各々の科目が看護のこととどのようにつながるのか、学生が知りたいと思っていることを情報として挙げていただけたので、講師と到達させたい目標との話をする機会を得た。後半も実習時に学生が目指す卒</p>	<p>教職員が学校の将来構想を抱いている項目が、ほぼ、になっている理由に注目して、自己評価の内容を継続して欲しい。</p>

	<p>業時の姿になるようコミュニケーションをとっていきたい。</p> <p><b>【助産学科】</b></p> <p>入学ガイダンスや講義開始時に、ディプロマポリシーの項目と講義との関連性を学生に伝えた。講義終了時に授業評価のアンケートをとっており、評価4が「非常にあてはまる」評価3が「だいたいあてはまる」となっている。前期に行った実習以外の講義について「ディプロマポリシーが意識できる内容であった」という項目の評価結果の平均は3.5であった。</p> <p>周知については、講師には講義の依頼時・講師会議時に、実習施設には年2回の実習指導者会議時にディプロマポリシーと結び付けて学生に学ばせてほしい内容と共に伝えている。また、前期に終了した科目の学生の授業評価を7月に講師に伝えた。2月の講師会議で学生評価を再度報告し、ディプロマポリシーの周知と教育内容を確認していく。</p>	<p>学生が科目の到達を理解して学習できるような働きかけを継続して欲しい。</p>
<p>(2) 学校運営</p>	<p>4月より新たな事務長、専任教員1名、専任教員養成講習会に参加の期間（5～12月）に会計年度職員2名の協力を得て、学校運営を行っている。8月中旬からは休職中の職員の試験就労が開始となった。互いの状況が理解しやすいよう、昨年度末に、職員室を事務職員・看護学科と助産学科の看護教員が入る職員室に配置を変更した。同じ空間にすることで、看護学科・助産学科の教員の動きや会話から互いの状況を把握する機会が増えている。体調の変化など職員間で声をかけあう姿も増えている。役割の進捗状況の情報共有や意見を求める機会として、朝礼・夕礼、会議、職員パソコンの閲覧機能を継続して活用している。今年度より共有フォルダの使用を起案・供覧文書と合わせて変更しており、実際に運用する中でフォルダ名を修正・追加している。変更に伴い情報を探す時間のロスも生じており、運用しながら使いやすい方法を模索している。</p> <p>本校の倫理指針は学校便覧に示しており、今年度は、教員間で職業倫理を育むための学習会を実施している。看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの一部改正を受けて、ハラスメント防止に向けた環境整備のひとつとして、ハラスメント防止ガイドライン作成に着手した。5月に他校の情報を得て検討し、9月に静岡校との調整を行っている。現在、ソーシャルメディアの活用については、今までガイダンス時に業者から提供されたパンフレットを活</p>	<p>情報交換しやすいよう職員室の配置を工夫し、安定した学校運営ができていることを評価する。</p> <p>学生への教育に尽力しているのは伝わる。学生に向けたハラスメント防止のガイドラインのみでなく、教職員が健全に業務していけるよう、教職員間の倫理や業務の効率化などの環境整備にも努めて欲しい。</p>

	用しながら説明している。学生便覧にハラスメント防止ガイドラインとソーシャルメディアガイドラインを示し、活用できるように取り組んでいく。	
(3) 教育活動	<p><b>【看護学科】</b></p> <p>令和4年度入学生より新カリキュラムとなり、1年次のカリキュラムは、2年目である。昨年の修正・変更（例えば時期や方法を見直すなど）を行い授業を組み立てている。</p> <p>2年生は今年度より新カリキュラムとなり、学生にとってスムーズな理解となるよう講義の順番など修正が必要なものを微調整するよう計画している。</p> <p>精神看護の方法では、講師の変更やそれに伴う授業変更が大幅にあったが、学内教員の授業移動などで対応し、確実な履修となるよう調整している。</p> <p>成人看護の方法は講義と半分ワーク形式にしている。事例を基にワーク課題を出し、課題の過程を授業に組み入れたり、結果（発表）を授業に組み入れたりしている。ねらった課題の成果が出てきていない現状なのでねらいをもう少し検討し、実施しながら次年度の授業に結び付ける予定。</p> <p>令和4年度は、多様な価値観をもつ学生に看護師として倫理を育む関わりを見つめ直す機会があった。学生と教員がともに意識し、評価しながら次に活かしていけるよう、今年度実習評価に倫理評価を全領域統一している。その取り組みが、学生の思考判断や行動の変化につながったか評価したい。</p> <p>学生は、電子テキストを使用しているが、紙媒体での講義資料の希望が強い。可能な限り、事前に資料のデータを学生に送信して、各自プリントアウトしていけるように配慮する。紙媒体で授業資料を希望する学生は一定数ある。入学前・始業時に、自宅でのプリンター準備の周知や、学校内でのカラーコピー機の使用についての環境を整える必要がある。</p> <p>来年度の3年生の新カリキュラムで、科目が継続していくものも、国際情報論、担当講師の変更があり、講師選定を行っている。全科目の新カリキュラム施行に向け準備を継続する。</p>	<p>学生が目指す姿を描いて学習していけるよう、目標の明確化や内容の精選など継続して取り組んで欲しい。</p> <p>電子テキストを活用しているが、資料について電子または紙媒体がよいか、学生のニーズを把握した対応を継続するとともに、学習環境の整備も合わせて取り組んで欲しい。</p>
	<p><b>【助産学科】</b></p> <p>講義では学生の特徴や学習の様子を講師に伝えている。実習においては、実習指導者会議や実習前の打ち合わせの</p>	自己評価の内容を継続して欲しい。

	<p>機会に、各実習施設に学生の学習の状況と指導して欲しいことを伝え、学生の学びが統一できるようにしている。また、講義や演習で学んだことを学生が実習で実践できるよう、実習に合わせた指導方法を教務会議で検討している。</p> <p>職員の研修等は現在随時受講している状況であり、知識の共有を今後していく予定である。</p>	
<p>(4) 卒業・就業・ 進学</p>	<p><b>【看護学科】</b></p> <p>1年生では、9月に実施する基礎看護学実習Ⅰに向け、8月1日に実習に向けてのマナー講座（マイナビ）を行った。出会った際の第一印象の大切さや、看護学生としての態度、言葉遣いについて考える機会となった。また、1名が大学編入を希望しており、編入に向け対策を行っている。</p> <p>2年生では7月18日に就職活動スタートアップ講座が行われ、インターシップでのマナーや就職活動に活かせる機会となった。夏休み期間にほとんどの学生が複数の施設のインターシップに参加しており就職活動に向け準備をしている。また、7月27日にホームカミングディとして卒業1年目の30名程の卒業生と交流を行った。学生のアンケート回答から清水病院だけでなく様々な施設や就職活動、国家試験についても情報が得られたなど好意的な意見が多かった。清水病院以外に就職を検討している学生が多いことから就職先の検討や就職活動に活かせる機会となった。</p> <p>3年生の卒業予定者は就職試験に合格しており進学希望者以外の就職先は決定している。</p> <p><b>【助産学科】</b></p> <p>学生が国家試験の問題に慣れるよう、5回の模擬試験の年間計画を立てて9月より実施している。8月までに助産師国家試験の過去問題集や参考書等を購入をし、学生がいつでも勉強に取り組めるようにしている。</p> <p>早まる就職試験に対応するため、入学の書類に就職先の希望調査用紙を入れ、早期からの支援につなげた。また、昨年度の就職試験の内容や今年度の募集案内を1冊にまとめ、学生に情報提供を行い就職活動を支援した。学生は7月末までに7名全員の就職先が決定した。</p> <p>4月に卒業生との交流会を実施し、実習や国家試験対策についてイメージできたという回答が多く得られた。今年度は学生の主体的な参加を促すためにも、交流会開催前に学生へ質問内容を確認後教室に掲示していった。現在までに退学者や退学を検討する学生はいない。</p>	<p>自己評価の内容を継続して欲しい。</p> <p>卒業後のカリキュラム評価の学生からの回収率が低い理由をみつけ、検討する必要がある。カリキュラム評価の内容に、キャリア形成に関する問いの有無を確認して欲しい。</p>



	<p>た。リモートでのカンファレンスは通信環境が不十分であったため、今後は実施場所など病院の協力を得ながら実施していきたい。</p>	
<p>(6) 教育環境</p>	<p>空調の老朽化により度重なる故障があり、教室内の室温28度を保つのが大変で、教室の移動や学生個々の協力を求めている。長年課題としていたが、今年度は学校の一部の部屋の空調修繕する予算を確保でき、夏休みに使用頻度が高い4つの教室の空調を修繕して室温環境改善を図った。結果、学生の教室は27度に設定し、温度の変化もなく、教室は26～27度で保たれている。学生は、個人扇風機の使用等、通年通しての個々に工夫・努力をすることもなく、快適に過ごしている。授業に支障もなく、学生からは、「効率よく学べる、授業に集中できる」等、学校生活に支障がなくなったと声が聞かれている。また、タイル落下の危険性があった管理棟内壁タイルを優先度の高いところから修繕した。一部現在も使用不可能が継続中であり、学生の使用できる教室に制限が出ている。今後も、学生が安全に教育を受けられるよう、優先度を勘案した環境整備を継続していく予定である。</p> <p>今年度の備品購入はバイタルサインベビー人形に決定し、購入に向け調整している。また、来年度備品の計画的購入に向けたリストも作成していく。</p> <p>アイパッドは使用時の約束事を決め、実習時にも有効活用できる仕組みを整えている。</p> <p>4月から看護と助産学科の職員室を一体化したことで、両学科のコミュニケーションが円滑となり、情報共有がしやすくなった。不用品の廃棄も継続して行っている。</p> <p>引き続き、学生の教育環境整備に加えて、教員が働きやすく生活しやすい環境も整えていく。</p>	<p>シミュレーターなどICTを活用した教育環境の整備に努めて欲しい。学生が学習しやすく、教職員が働きやすいために、環境整備は優先的に努めて欲しい。</p>
<p>(7) 学生募集</p>	<p><b>【看護学科】</b></p> <p>例年6月に作成していた募集要項を5月中旬に作成し、早期の学校説明会や進学相談会で活用したほか、富士・富士宮地区に拡大した高校訪問にも持参した。</p> <p>聖火継承式では、高校11校に呼びかけを行い4名の参加があり、ニュースにも取り上げられるなどメディアへの発信もできた。</p> <p>夏休み前に1年生・2年生の学年担当から高校（母校）への訪問の声掛けを実施し、夏休み中に14校を訪問した。</p> <p>7月と8月に開催したオープンキャンパスでは、各回100名前後の参加があった。両日とも対面で実施し、人数制限や参加者制限がないことから保護者の参加も多く見ら</p>	<p>求める学生の確保に向けた取り組み、学生自治会のインスタグラム立ち上げに動き出していることを評価する。</p> <p>少子化が続くため、今後は高校生だけでなく、中学生や小学生へのPRも考えていく必要がある。</p>

	<p>れた。アンケートでは、「在校生から生の声を聞いた」ことの評価があった。1年生・2年生の有志が各回10名参加してくれたことも、良いアピールになったと言える。</p> <p>10月の看学祭は地域住民や高校生を招待して実施予定である。ポスターが完成次第、母校に持参してもらうことで複数回の高校訪問となり、本校の魅力をアピールすることを期待したい。また、看学祭の企画として在校生や卒業生の活躍を伝えるポスターを作成し、再度母校訪問を促すことも考えている。</p> <p>今後の取り組みとしては、救急フェアへの参加を足がかりに、(仮称) 血圧測り隊の他イベントへの参加を検討していきたい。また、SNSの運用については、学生自治会からインスタグラム運用に関しての企画書が提出されている段階である。今後、市の広報課と調整をして、運用開始までサポートしていきたい。その他、しみかんちゃんグッズの作成計画、実習施設への学生募集ポスター掲示依頼などを行うことにより、さらなる学校のPRに取り組んでいきたい。</p> <p>このように、進路説明会・学校訪問・オープンキャンパスなどを活用して、学生とともに本校の情報発信に取り組んでいる。二次募集に関しても、募集要項への記載や高校訪問時に伝えるなどの工夫をしている。本年度は、募集要項を1,100部作成し積極的に活用したことから、来年度の増刷検討も必要であると考えます。</p>	
	<p><b>【助産学科】</b></p> <p>学校説明会が7月1日(土)の1回のみのため、平日の学校説明会を開催した。6月5日(月)、7日(水)、15日(木)、21日(水)の4日間で8名の参加があった。アンケート結果では、「実際の演習や講義を見学することにより、学校生活を知ることができてよかった」等の意見があった。</p> <p>7月1日に実施したオープンキャンパスでは、45名の参加があった。32名のアンケートが集まり、「とても満足した」「満足した」の項目を合わせ100%という結果であった。助産学科の周知と学生確保に向け、募集要項を実習施設や近隣の学校を中心に配布し、ホームページ上で助産学科だよりを適宜更新している。</p>	<p>学生募集の取り組みを評価する。自己評価の内容を継続して欲しい。</p>
<p>(8) 財務</p>	<p>令和5年度の歳出については、予算をもとに適正に執行を進めている。</p> <p>空調設備の一部改修については4月末に見積執行を行い施工業者が決定し、8月に教室等の4箇所交換修繕を行った。</p>	<p>学生の学習環境、教職員の働きやすい職場環境は優先度が高い。予算確保に努めて欲しい。</p>

	<p>見積執行の差金については、財政課と協議し、年度内に2箇所程度追加の修繕事業を行う予定である。また、第4次総合計画にその他の教室等の修繕を行うことを目指し、資料を提出済みである。</p> <p>令和5年度の入学生減により収入の見込みが減ることから、令和6年度には支出予算の見直しが必要となるため、各部門で精査が必要であり、無駄のない執行計画を立てることが求められる。</p>	
(9) 法令等の 遵守	<p><b>【看護学科】</b></p> <p>事前提出書類、当日準備する書類及び資料を教職員に協力のもと計画的に整え、7月13日に指導調査を受けた。指導調査結果について、2点の口頭指導を受けた点について教職員で共有した。申請している授業内容は、順調に実施している。指導調査について指摘事項はなかった。</p> <p>社会人を経験している学生より、既修得単位の認定願いが出された。講師の意向を反映させながら規定に基づき申請があった2人に対し実施した。</p>	自己評価の内容を継続して欲しい。
	<p><b>【助産学科】</b></p> <p>今年度は分娩介助実習施設が1か所受け入れ中止となったため、10例の分娩介助ができるよう、今年度より新たに7・8月に県立総合病院での分娩介助実習を実施した。3名の学生が県立総合病院と清水病院の2箇所に分かれ、ローテーションで実習を行った。分娩件数の減少に伴い学生が分娩介助ができる正常産が減ってきている中で、県立総合病院では、3名で13人の分娩介助を行うことができた。11・12月は清水病院・焼津市立総合病院・藤枝市立総合病院の3か所での分娩介助実習となる。清水病院での実習は、学生3名のうち2名が病院で実習を行いローテーションしていく。規定の実習時間が確保できるよう実習状況を把握し、学生配置をしていく。</p> <p>また、学生1名で10例の分娩介助ができるよう、新たな分娩介助実習施設と次年度の調整を行っている。</p>	実習施設に苦慮しながらの取り組みを評価する。自己評価の内容を継続して欲しい。
(10) 社会貢献 ・地域貢献	<p>コロナ禍で依頼がほとんどなかったが、「救急フェア」「学童支援員」等地域からボランティアの依頼が入るようになってきた。学内ボランティアである「オープンキャンパス」は1,2年生とも積極的に参加していた。今年度は看学祭でも地域とつながることをテーマに準備を進めている。コロナ禍で社会とつながる経験の少なさが影響していると思われるため、ボランティアの依頼を積極的に受け、</p>	相手を思い行動する姿勢や社会性を育むボランティア活動への取り組みを評価する。引き続き、いろいろな分野でボランティア活動を勧めたい。

	<p>学校から地域貢献できる機会を発信し、学生が社会を知る機会をつくっていききたい。</p> <p>学校としての地域貢献は、看護協会主催の専任教員養成講習会の演習支援や教育実習受け入れ準備、専任教員継続研修の企画委員を担っている。昨年度に引き続いて新人看護職員実地指導者研修コーディネーターを12月に担う予定である。今年度初めて実習施設の1つであるはーとばる運営委員会に出席した。清水病院や近隣施設にモデル人形等備品の貸出しを行った</p>	
(11) 国際交流	<p>看護学科では、3年生の4月から国際情報論が開講している。これまでに外部講師より計5回授業があり、日本人と原住民との生活や価値観の違いを、講師の実体験を通して聴講している。9月にはJICA経験のある本校卒業生の講義を予定している。</p> <p>助産学科では、助産院実習にて、外国の助産所体験の映像・外国の助産師の歴史の話から、助産師の役割は各国共通しているが、助産師の確立・開業・独立の違いを学だ。また、9月から開講する地域母子保健Ⅱの講義の中で、海外の助産所で働いたJICA経験のある助産師が講義を行う予定である。</p> <p>両学科ともに、外国人妊産婦の出産に携わらせてもらっており、生活背景や言葉の壁に苦しみながらも、積極的にコミュニケーションを取っている。講義・実習から、異文化看護を学び、講義と実習を繋げ、学びを深めている。</p>	<p>海外と日本を行き来しながら活躍する卒業生に協力を得ることはよい。ホームページなど可視化する工夫も考えたい。</p>
(12) 教育力の向上	<p>今年度から新たに導入した実習施設や、教員が初めて担当する実習領域で臨床研修を実施した。助産学科では、4名の教員が県立総合病院で臨床研修を実施。看護学科では、精神看護学で清水駿府病院に1名、老年看護学で蒲原病院へ2名、山の上病院へ2名、在宅看護論実習で訪問看護ステーション駿河に1名の教員が臨床研修を終えた。研修で得た学びを、実習指導や教授活動に反映できている。後期も教育評価をしながら臨床研修を実施していく予定。</p> <p>助産学科では臨床指導者会議が対面で実施できるようになり、専任教員、実習指導教員や臨床指導者と情報交換をしながら、学生へのオリエンテーション前に指導体制を共有した。情報リテラシーについては情報の取り扱いについて、学生及び教員間で共通理解を図った。</p> <p>看護学科では前期4回の学習会を開催した。倫理指針の見直しに向け、過去にあった実習事例をもとに、倫理分析を行っている。両学科で倫理に関する情報交換もしていきたい。</p>	<p>自己評価の内容を継続して欲しい。</p>

【後期の取り組みへの示唆】

- 1) 求める学生確保の取り組みの継続
  - ・学生自治会のインスタグラム開設の推進
  - ・分べん介助に向けて実習施設確保の検討
- 2) 学生の社会性や職業倫理を育む取り組みの継続
  - ・ボランティア活動の推進
  - ・倫理に関する学習会の実施
- 3) 学生が学習しやすく教職員が働きやすい環境整備
  - ・環境整備に向けた必要な予算の確保
  - ・効率的な業務の検討

【令和5年度学校関係者評価会議】

開催日 第1回：令和5年10月12日（木）15時30分～16時30分

委員長 水谷美由紀（静岡市立清水病院看護部長）

委員 櫻井郁子（公益社団法人静岡県看護協会常務理事）

委員 渡邊昌子（静岡県訪問看護ステーション協議会会長）

委員 塚本尚代（静岡市立清水看護専門学校後援会長）

事務局

上牧 務（校長） 佐野繁子（副校長） 志田訓広（事務長） 辻 愛子（主査）

池村さおり（助産学科教務長） 和田 愛（看護学科教務長）

加茂川将美（教務主幹） 松本めぐみ 中村卓樹（教務主幹補）

坂本希世子 今井弓珠 西谷沙紀 井出見也子 稲川由美 山本智美 深澤啓世（看護教師）